

# 矢作川流域圏懇談会通信

## 全体会議 vol.1



発行日：平成29年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

### ◆第6回全体会議を開催しました！

2月24日（金曜日）に矢作川流域圏懇談会第6回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の3サイクル目の初年度にあたり、各部会の具体的な活動状況の報告と、活動方針の意見交換を行いました。

日時：平成29年2月24日（金）14:00～16:00

会議場所：安城市民会館 3F 大会議室

参加者：82名（事務局含む）



### ◆主な会議内容

#### 1. 確認事項（懇談会の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）

##### ■懇談会の運営方針

懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営している。今年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へ移行した期間でもあり、各部会WGにおいて具体的な活動に取り組んだ。

##### ■各部会の活動進捗

- 山部会：「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを議論した。事例集作成のための流域内21団体へのヒアリングや、森づくりに係わるフィールドワークを豊田市・根羽村・山北町（神奈川県）で実施した。また、奥矢作森林フェスティバルに参加した。
- 川部会：「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマを数回ずつに分けて議論した。現地調査として、本川（38.8k～40.8k左岸）の状況の視察、加茂川水門下流の堰上げ式魚道の視察、上郷柳川瀬排水機場の見学を実施した。
- 海部会：「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の4つのテーマについて議論した。（一社）JEANや全国川ごみネットワークの代表者を招いての議論や、奥矢作森林フェスティバルに参加した。

##### ■流域連携テーマに関する成果

「ごみ・流木」については、奥矢作森林フェスティバルにおける三河湾の魚介類の紹介や、（一社）JEANを招きゴミ問題に関する最新の知見についての情報共有等を行った。「土砂」については、源流環境保全状況の視察（山北町）や「砂の駅」イベントについての意見交換を行った。「木づかい」については奥矢作森林フェスティバルで根羽スギを使ったペンダント作りのブースの出展をした。

#### 2. 協議事項（今後の運営方針と各部会の活動計画、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて）

##### ■今後の運営方針と各部会の活動方針

- 今後の運営方針
  - ・懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営をする。
  - ・来年度は、3サイクル目「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」の2年目となる。
- 山部会の活動方針
  - ・今後も4つのテーマを継承しながら、よりPR力のある情報発信、活動により築かれた人間関係を活用したイベントの開催、矢作川の水源かん養機能に配慮した森づくりの発信、木づかいガイドラインの流域内での水平展開を目標とする。
- 川部会の活動方針
  - ・今後も3つのテーマを継承しながら、これまでの蓄積をモデル化した情報共有・情報発信、継続的なモニタリングと順応的管理の実践、関係する委員会、自治体、団体との積極的な連携を目標とする。
- 海部会の活動方針
  - ・今後も4つのテーマを継承しながら、山や川との合同部会の設置と部会員同士の交流強化、矢作川を対象とした団体、個人への本懇談会活動への参加促進、活動拠点づくりを目標とする。

##### ■流域連携テーマに関する活動方針

・「ごみ・流木」では、ごみの協働調査・対策、学習プログラムの活用、「土砂問題」では、ダム・河川掘削土砂の活用とモニタリング、「木づかい」では、流域ものさしを用いた流域の魅力の発信や市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトの検討を行う。

##### ■河川整備計画フォローアップについて

- ・河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。
  - (1) 治水（現地での意見交換や見学）
  - (2) 利水（情報提供等）
  - (3) 環境（勉強会・現地でのヨシ植え等）、
  - (4) 土砂管理（勉強会等）



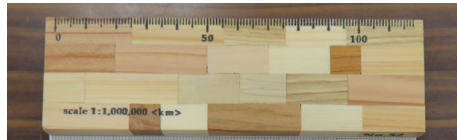
### 3.その他（「流域ものさし」の今後の活用方法等の提案）

#### ■提案 1：流域ものさし

流域の市民が流域内に生育する木を使って「流域ものさし」を作成する。

#### ■提案 2：わたしの流域ものがたり

矢作川流域のマップに自分にとって魅力的だと感じる場所をコメントや写真を付加した「わたしの流域ものがたり」を作成する。この「わたしの流域ものがたり」は「流域ものさし」とともに相手に応じてプレゼントする。



◀流域ものさし



（●意見 ▶回答）

## ◆話し合いでの主な意見



### 1.確認事項（各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）



#### ■各部会の活動進捗

- ・山部会の活動進捗に対しては事務局の報告によくまとめられていた。（蔵治）
- ・川部会は、矢作川漁業協同組合との連携できたので、今年は進展があったと感じた。矢作川研究所で議論された内容が川部会の中で紹介されるようになり、よかったと思う。（内田）
- ・海部会は、奥矢作森林フェスティバルに参加したりするなど、ダム砂を入れた場所のフィールド調査などを積極的に行っており、成果は上がっていると思う。ただし3年間の目標として山部会、川部会との合同WGを年1回以上は設置するとしていたが、今年は4回しかWGをできなかったことを反省している。（青木）

#### ■流域連携テーマに関する成果

- ・河川整備計画を作る際にメニューとして盛り込みきれなかった河川管理者のみでは対応できない部分について、流域圏懇談会の皆さんが粘り強く検討・活動することによって県・市町や森林部局等との関係性を構築することで実現してきている。懇談会という仕組みによって、河川接続部の段差解消や上流の森林整備などの議論が皆さんの成果になってきていると感じた。（辻本）

### 2.協議事項（今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、流域ものさしの活用方法について）



#### ■今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針

- ・森づくりガイドラインに記載されている「土砂の流出抑制」という文言は、「山を治めつつ適度な土砂流出を促す」というニュアンスに基づいて、「適度な土砂流出を図る」という表現も含めて再考していきたい。（蔵治）
- ・山村ミーティングの「森林組作業班を対象とした」という表現は「森林組作業班を中心とした」という意味合いである。それは、山・川・海で盛り上げていこうという意味合いの形である。（丹羽）
- ・社会的という言葉を使用したのは、広い視点が必要だろうという意味である。地先モデル等は、住民とどういった関わりを持っていくかという観点が必要であるため、来年度以降は社会学専門の吉橋久美子さん、環境社会学専門の古川彰さんを加えていくことができないか考えている。（内田）
- ・部会単独ではなく、流域を意識し山・川・海共同で活動していかなくてはならないのではないかと。（新見）
- ・山部会または川部会のイベント時などに、海の実状等をごみ問題から理解してもらうことや、海の情報発信等を積極的に行っていきたい。干潟についても砂の問題が最重要問題だと思う。（青木）
- ・山から海までの物質の流れにおいて、珪酸とフルボ酸がキーワードになると思うので市民会議で取り上げていきたい。（井上）
  - 流域から色々な物質が流れてきて水質や生態が変わるなら、流下している物質や川の中で起こっていることなど、川部会でも取り上げられたらよいと思う。非常に大きな指摘だと思う。（辻本）
- ・川部会の流域連携テーマは、川が中継して連携をとるようなところがあるが、資料からは川に関連したもの（土砂・物質・生物等）があまり見えてこない。本来川が一番連携をつないでいると思うが、川部会ではどのような議論がなされているか。（辻本）
  - 海ごみは川から出てきているので、サイクリングロード・土砂管理を含め、川が主体となって取り組んでいきたい。（事務局）
  - この問題は山との連携が必要になってくるので積極的に話を持ちかけるとよい。（辻本）
  - 川の問題を抜きに土砂の問題は語れないと思うが、課題解決はなるべく3部会共同でできることを広げていく、というスタンスになると思う。川部会で議題にならなかったのは、海部会の働きかけも弱かったのではないかと反省している。（青木）

#### ■流域ものさしの活用方法について

- ・流域ものさしは色々な木が重ね貼りしてあるが、膨張率が違うことでひずみが生じることはないか。（辻本）
  - しっかり乾燥させるとともに木の筋どおりに組み合わせるので、ひずみを回避できていると思う。（今村）

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。

